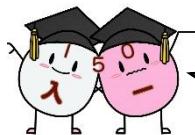


研究主題

児童を中心としたカリキュラム・マネジメント
～自由進度学習の可能性を探る～

マイプラン・タイム（1教科2単元）

第1学年 国語科学習指導案



本校では単元内自由進度学習を
『マイプラン・タイム』と呼んで
いるよ。

実施期間：令和7年6月25日～7月8日

対象：第1学年 76名（特別支援学級含む）

場所：第1学年教室・教室前廊下

授業者：田中杏子 湯田吉保 今野萌々子 杉山幸子

1 単元名 **国語科①** 「あいうえおで あそぼう」（こくご一上 光村図書）（3時間）

国語科② 「はをへを つかおう」（こくご一上 光村図書）（4時間）

2 題材・単元の目標

国語科①

◎平仮名を読み、書くことができる。

◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさにことができる。

○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。

言葉遊び歌を楽しむ。

国語科②

◎助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとめが分かるように書き表し方を工夫することができる。

助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。

3 題材・単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
国語科①	姿勢や形、発声や発音に注意して話している。 平仮名を読み、書いている。 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。		進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習を生かして言葉遊びを楽しもうとしている。
国語科②	助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとめが分かるように書き表し方を工夫している。	進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

国語科① 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成29年告示）において、以下のように位置付けられている。

国語〔第1学年及び第2学年〕 2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。

ウ 調音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

本単元は、「あいうえお」を使った唱え歌と五十音表、言葉遊びで構成されている。改めて平仮名について五十音表で整理し、正しく読んだり書いたりすることを目的としたものである。

平仮名が読めるようになり、言葉についての関心が高まってきた時期である。これまでに、五十音のほとんどの読み書きと、濁音・半濁音、促音、長音の表記の仕方を学習してきた。言葉作りや言葉集めは、口頭で行うだけでなく、確実に文字を書かせたい。書きながら語彙や語句に関心をもたせることができるだけでなく、児童自身が、どの文字がしっかりと書けるようになったか、不安なものは何かということを知る自己評価の機会にもなる。

唱え歌は、各行の音数が4・4・5でそろっていることと、「あやとり」「いすとり」のように、行内の語尾が一致していることで言葉の調子がよく、読むたびに心地よさが残る。用いられている言葉も遊びの名前から木の実の名前まで幅が広い。繰り返し読んでいるうちに知らず知らずに覚えてしまうほどの楽しさがある。

五十音表は、「縦に読む」「横に読む」「斜めに読む」「下から読む」などいろいろな読み方をさせて、表に親しませるよう活用を工夫する。どの文字も「あ」「い」「う」「え」「お」のどれかの音が残って聞こえることや、「あかさたな・・・」のように横に読むと、同じ列の音は全部同じ母音が残ることに気付かせるようにする。

国語科② 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成29年告示）において、以下のように位置付けられている。

国語〔第1学年及び第2学年〕 2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

助詞「は」「を」「へ」の使い方を学び、文の中で正しく書けるようにすることをねらいとしている。「は」と「わ」、「を」と「お」、「へ」と「え」の使い方は、児童がつまずきやすい学習である。自分の耳で聞こえてくる音と表記が一致しない点にその難しさがある。

そこでまず、唱え歌の音読を繰り返しながら、耳で聞こえてくる音と異なる表記をする文字を見付けることで、「は」「を」「へ」と表記するときの特徴を捉えさせる。それぞれが、何かの言葉にくっついて使われるときに、「は」「を」「へ」となっているということに気付かせる。名詞のときには、「わ」

「お」「え」となるというようなことを教える必要はないが、何度も扱っているうちに感覚的に捉えられるようになる。

本単元では、文法的に「は」「を」「へ」の学習をさせるのではなく、唱え歌を通して、同じ音に聞こえているのに表記が異なることを不思議に思わせたり、文字が使い分けされていることに気付かせたりして、楽しみながら日本語のもつ奥深さに触れさせていく。

教科書78ページの唱え歌は、助詞「は」「を」「へ」及び、それと同音の「わ」「お」「え」とを組み込んでいながら、ストーリー性があり、楽しいイメージが浮かぶ言葉遊び歌である。助詞の学習が、楽しみながら確実になされるように工夫されている。

また、「は」「を」「へ」の表記の学習には、文字だけを取り上げて扱うのではなく、文の中で扱うことが必須の条件となる。教科書にある文型を使って文作りをすることによって、助詞「は」「を」「へ」の使い方に慣れてくる。友達と一緒にたくさんの文を作る活動を通して、徐々に使い方に慣れさせていく。

(2) 児童観

児童にとっては初めての単元内自由進度学習（以下、マイプラン・タイム）になる。4月から平仮名の学習において、字形や書き順だけでなく、言葉探しにも毎時間取り組んできた。また、5月末からは連絡帳、6月半ばからは国語でノートを書く活動が始まり、黒板に書かれた字を視写する経験を重ね始めている。生活科の朝顔を育てる活動では、成長の様子を記録しながら、自分が見て気付いたことや触って感じたことなどを記録カードに短い文章で書く活動を行っている。児童が文章を書く際に、教員が提示した文型ではなく、自分で考えて文を書いている児童も見受けられる。その一方で多くの児童は、誤字・脱字が目立ち、正しく言葉を使うことや語彙の習得については、これから学習していく段階である。また、音声言語と文字言語が一致していない児童や平仮名がしっかり定着していない児童もいる現状がある。

そこで、本研究において、児童が学習内容に楽しく取り組みながら知識の定着が図れるよう学習環境を設定していく。そのためマイプラン・タイムに入る前の一斉指導では、単元全体の学習内容や課題（以下、ミッション）を確認したり、単元のゴールを伝えたりと見通しをもって取り組めるようにする。また、児童が意欲的に取り組めるように、わくわくできるような掲示物や探究的な課題（以下、パワーアップミッション）、分かりやすく取り組みやすいワークシートの工夫をすることで、一人一人が課題解決する力や諦めずに最後まで取り組む力の素地をつけることをねらいとしている。

5 本単元の学習の関連と発展

国語科

「あいうえおで あそぼう」

【1年】ことば さがそう

- ・言葉遊びを楽しみながら、語彙を増やす。

【1年】あいうえおで あそぼう

- ・唱え歌やしりとりを通して、語彙を増やす。

【1年】ことばを みつけよう

- ・言葉遊びを楽しみながら、語彙を増やす。



【1年】ことばで あそぼう（1年下巻）

- ・言葉遊びを楽しみながら、語彙を増やす。

国語科

「はをへを つかおう」

【1年】ぶんを つくろう

- ・主語と述語のそろった一文を書く。

【1年】はをへを つかおう

- ・助詞「は」「を」「へ」の使い方を理解する。



【2年】主語と述語に 気をつけよう

- ・文中の主、述の関係を知る。

【3年】こそあど言葉を使いこなそう

- ・指示する語句について、現場指示と文脈があることを知る。

【3年】修飾語を使って書こう

- ・文の中の修飾・被修飾の関係を知る。

【4年】つなぎ言葉のはたらきを知ろう

- ・接続する語句の種類と使い方を知る。

【6年】文の組たて

- ・文の中の語句の係り受けや語順について知る。

6 目指す児童像に迫るための手だて

低学年分科会 目指す児童像

自分のやりたいことを選び、最後までやりきることのできる児童

(1) 自分のやること、やりたいことを決められるようになるための環境・教材の工夫

- ア 第1時に、単元全体のミッション、評価規準を伝える。単元の終わりには、学級ごとの「あいうえおのうた」づくりや「は・を・へを使って作った文」の紹介をする。一人一人が何をどのような順番で学んでいくか自分で選択できるように、掲示物やマイプラン・シートの作成をする。
- イ 活動の内容や自分の進度を確認しやすいチェック表を作成することで、まだ取り組んでいないミッションや次に取り組みたいミッションを選びやすくする。
- ウ 教室と廊下を活動場所とする。パズル形式で、組み合わせて文作りができるようなカードを用いる。壁面には、動物や花、物などの名詞になる言葉や日常的な動作を表す絵を掲示し、掲示から言葉を見付けたり連想したりして文作りや「あいうえおのうた」を作成できるようにする。また、ミッションの説明を学習シートに入れ、掲示物でも同様に確認できるように作成する。
- エ 学習シートやパズルカード、掲示物など、課題解決のヒントになるものを複数用意することで、一人でも最後までやりきりができると考える。

(2) 学習意欲を持続させ、最後までやりきる力を付けるための学習過程の工夫

- 単元のはじめに、最後に取り組む課題を伝え、学習の見通しをもたせる。また、ミッションについての具体的な説明を行う。2単元同時進行マイプラン・タイムの内容が「あいうえおのうた」の作成や「は・を・への文」の紹介という学習活動につながることを児童に理解させることで、学びに向かう意欲を高めていく。

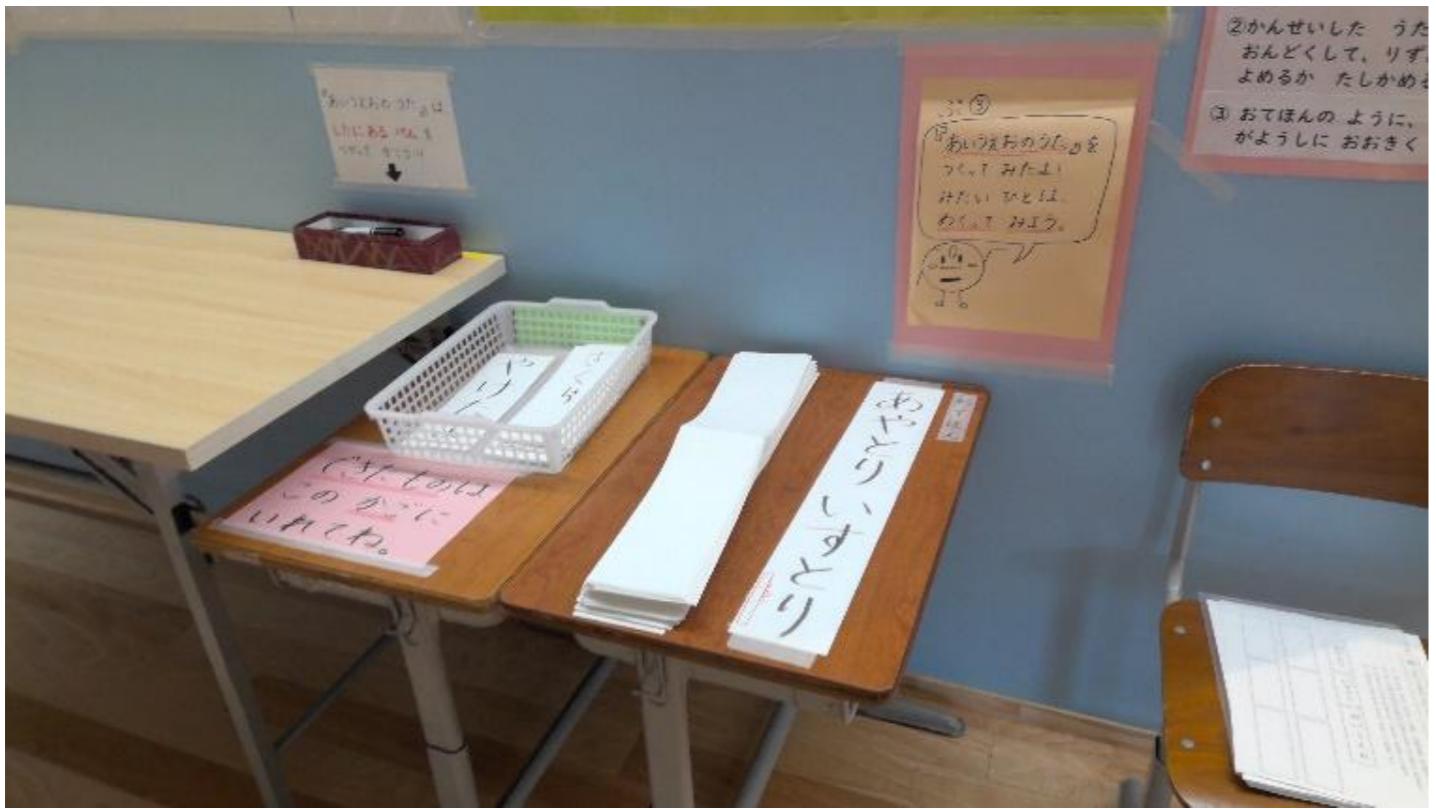
7 授業観察の視点

自分のやりたいことを選んだり、最後までやりきったりする手だてとして、学習シートやミッションの内容を説明した掲示物、ヒントになる掲示物等は、有効であったか。

第1学年 単元の指導計画と評価計画(国語)

時	1	2	3~6	7																													
形態	一斉	一斉	個別	一斉																													
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方や本単元の目標を知り、見通しをもつことができる。 ・助詞の表記の仕方を知り、正しく音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいうえおのうた」の仕組みを見付けて、リズムよく音読することができる。 ・五十音表の特徴や、しりとり遊びのルールを知ることができる。 ・両単元の目標を知り、学習の見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 ・リズムの調子のよさを楽しみながら、自分の「あいうえおのうた」を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の使い方を確かめながら、作った文章を紹介し合うことができる。 ・「□組あいうえおのうた」をリズムの調子のよさを楽しみながら音読することができる。 																													
学習の流れ	<p>1 マイプラン・タイム学習とはどんな学習なのかを知る。</p> <p>2 助詞が間違っている唱え歌から助詞の表記の仕方を知り、正しく音読することができる。</p> <p>3 学習の進め方と本単元の課題をと目標を知る。</p>	<p>1 「あいうえおのうた」の仕組みを見付ける。</p> <p>2 「あいうえおのうた」をリズムよく音読する。</p> <p>3 五十音表の特徴を見付ける。</p> <p>4 しりとり遊びのルールを知る。</p> <p>5 本単元の課題と目標を知り、マイプラン・シートの書き方を確認する。</p>	<p>1 はじめに取り組む課題を確認する。</p> <p>2 マイプラン・タイム</p> <p style="text-align: center;">がくしゅうまっぷ こくご ○「は・を・へをつかおう」 ●「あいうえおであそぼう」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">がくしゅうないよう</td> </tr> <tr> <td>みんなで</td> <td>1</td> <td colspan="2">○となえうたのよみかたをしり、ただしくよめるようにしよう。</td> </tr> <tr> <td>みんなで</td> <td>2</td> <td colspan="2">●「あいうえおのうた」をりずむよくよもう ●ひらがなのひょうのひみつをつけよう</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ひとりで</td> <td>3</td> <td>○「は・を・へをつかおう」</td> <td>●「あいうえおであそぼう」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>①まちがいさがしをしよう ②ばざるにちょうせんしよう ③ぶんをつくろう</td> <td>①しりとりあそびをしよう ②ひとりしりとりをつけよう ③「あいうえおのうた」をつくろう</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>□□ではじまるぶんをつくろう</td> <td>□□だけしりとりをしよう しりとり△△をつくろう 「あいうえおのうた」ぜんぶをつくろう</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ぶりんと④</td> <td>ぶりんと⑤ ぶりんと⑥ ぶりんと⑦</td> </tr> <tr> <td>みんなで</td> <td>7</td> <td colspan="2">○つくったぶんをしょうかいしよう ●「くみあいうえおのうた」をおんどくしよう</td> </tr> </table> <p>3 今日の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。</p>			がくしゅうないよう		みんなで	1	○となえうたのよみかたをしり、ただしくよめるようにしよう。		みんなで	2	●「あいうえおのうた」をりずむよくよもう ●ひらがなのひょうのひみつをつけよう		ひとりで	3	○「は・を・へをつかおう」	●「あいうえおであそぼう」	4	①まちがいさがしをしよう ②ばざるにちょうせんしよう ③ぶんをつくろう	①しりとりあそびをしよう ②ひとりしりとりをつけよう ③「あいうえおのうた」をつくろう	5	□□ではじまるぶんをつくろう	□□だけしりとりをしよう しりとり△△をつくろう 「あいうえおのうた」ぜんぶをつくろう	6	ぶりんと④	ぶりんと⑤ ぶりんと⑥ ぶりんと⑦	みんなで	7	○つくったぶんをしょうかいしよう ●「くみあいうえおのうた」をおんどくしよう		<p>1 マイプラン・タイムで作った文章を紹介し合い、助詞が正しいか確かめたり、感想を伝えたりする。</p> <p>2 マイプラン・タイムで作った「あいうえおのうた」を共有し、「□組あいうえおのうた」として、リズムの調子のよさを楽しみながら音読する。</p> <p>3 単元全体の学習を振り返る。</p>
		がくしゅうないよう																															
みんなで	1	○となえうたのよみかたをしり、ただしくよめるようにしよう。																															
みんなで	2	●「あいうえおのうた」をりずむよくよもう ●ひらがなのひょうのひみつをつけよう																															
ひとりで	3	○「は・を・へをつかおう」	●「あいうえおであそぼう」																														
	4	①まちがいさがしをしよう ②ばざるにちょうせんしよう ③ぶんをつくろう	①しりとりあそびをしよう ②ひとりしりとりをつけよう ③「あいうえおのうた」をつくろう																														
	5	□□ではじまるぶんをつくろう	□□だけしりとりをしよう しりとり△△をつくろう 「あいうえおのうた」ぜんぶをつくろう																														
6	ぶりんと④	ぶりんと⑤ ぶりんと⑥ ぶりんと⑦																															
みんなで	7	○つくったぶんをしょうかいしよう ●「くみあいうえおのうた」をおんどくしよう																															
評価規準(評価の方法)	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」「を」「へ」を正しく音読している。(発言・観察) ・助詞「は」「を」「へ」の使い方の間違いに気付くことができる。(発言・観察) 	<p>・「あいうえおのうた」の仕組みに気付いている。(発言・観察)</p> <p>・「しりとり」の仕組みに気付いている。(発言・観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの調子のよさを楽しみながら、自分の「あいうえおのうた」を作ることができる。(記述・観察) ・五十音表に親しみ、その特徴に気付き、しりとりや言葉集めを楽しむことができる。(発言・観察) ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(記述・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や口形、発生や発音に注意しながら、「あいうえおのうた」を読むことができる。(観察) 																													
	イ		<ul style="list-style-type: none"> ・語と語や文と文との続き方に注目しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(記述) 																														
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を見いたす活動にすすんで取り組んでいる。(発言・観察) 	<p>・「あいうえおのうた」のリズムをとり、楽しみながら読んでいる。(音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習を生かして言葉あそびを楽しもうとしている。(観察) ・進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。(記述・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童がつくった「あいうえおうた」について、進んで読もうとしている。(発言・態度) 																													

国語科①「あいうえおで あそぼう」 学習環境の様子



国語科②「はをへを つかおう」 学習の様子

